

# 障がいに対する理解を深める研修・啓発活動講師団 ニュース

～障がいの有無にかかわらず、お互いに認め合い、思いやり、支え合う社会をつくるために～

No.8 2015.3.31



市内竹の内の住民を対象に「障がいに対する理解を深める研修会」を開催しました。

平成27年3月22日（日）18:00～19:00

会場：竹の内公民館

参加者は、75人でした。

講師団からは、大久保多津子さんが出席して、障がいのある子どもの保護者という立場から話をしました。

## 研修の流れ

- ① **障がいのある人が置かれている状況**（20分間）
  - 障がいのある人の保護者が置かれている実情を知てもらいました
- ② **ともに生きる条例が果たす役割**（30分間）
  - 条例の概要を知てもらいました
- ③ **皆さまへのお願い**（10分間）
  - 対象者へ「障がいに対する理解を深める」「合理的配慮を行う」ようお願いしました



## 知的障がいとは

知的機能の障がいについて標準化された知能検査により測定された結果が、知能指数がおおむね70未満（以下）に判定されるものです。程度により軽度、中度、重度、最重度と分けられます。

平成26年3月末現在、別府市では879人が療育手帳（各種援助を受けやすくするため、知的機能に障がいのある人に対して交付されるもの）の交付を受けています。



発行：別府市福祉保健部障害福祉課

〒874-8511 別府市上野口町1番15号

TEL：0977-21-1413 FAX：0977-22-1780

E-mail：haw-hw@city.beppu.oita.jp

市ホームページ URL：http://www.city.beppu.oita.jp

と も に 生 き る 条 例



## 【大久保多津子さんからの講話】



聴覚と知的の重複障がいのある子どもを持った母親としての話をしたいと思います。

子どもは、学校を卒業して、当時、朝日園にあった上人授産所に入りましたが、法律が変わったことなどから、「はっぴい」というNPO法人を設立して、現在は春木で作業所を運営しています。

今日は、主人の母の13回忌で、法要したのですが、そのときに来ていただいたお坊さんの話で「母親は、例えば、子どもが怪我をしたときなど、それを自分のせい、自分が悪いとつい思ってしまう。」というのがありました。私も障がいのある子どもが生まれたのは、私が悪いと思って「自分が頑張って子どもを育てなければいけない。」そう考えて頑張ってきました。

若いうちは体の具合が悪いなど、少しぐらいは頑張れば何とか耐えたのですが、だんだん年をとって体力もなくなり、膝が悪いなど、いろいろと悪いところが出てきました。痛いうちはまだいいのですが、本当に病気になったり、入院になったらすごく困ります。先日も知り合いの障がいのある子どものお母さんに熱が出て、私や仲間がSOSを聞きつけて迎えに行ったり、送り届けたりしました。誰かに支援を頼むとき、親と障がいのある子ども二人きりで、お母さん一人ではどうにもならないというときに、誰を頼ればいいのか。もちろん友達や施設の仲間を頼ることもできますが、そういったときにすぐに支援がある、そういったサービスがあればよいなという話は仲間間でよくします。サービスはすぐにしてもらえるものではありません。申請が必要ですので、前もって手続きをしておかなければいけません。

いよいよ入院というときや、子どもの世話ができなくなるときは必ず来ます。そのときに、自分の子どもを他人にゆだねなければならなくなります。そのときに、自分の子どもが今までの生活を維持できるか。例えばスポーツをしている子どもがスポーツできるか、好きな映画を見に行けるか、気兼ねなく買い物に行けるかなどの心配があります。今までの生活を維持できつつ、他人にゆだねるとするのはすごく難しい。まず、ゆだねる場所がない。グループホームなどが別府は決

定的に少ないです。これは私たちも努力しなければいけません、行政や保護者、施設が協力し合ってゆだねられる場所をつくらなければいけないと思っています。必ずその日は来ますので、死ぬ順番としては親が先ですので、そこをきちんとしないと、お母さんたちは死ぬに死ねません。

私はずっと別府育ちです。別府には温泉もあり、自然もあり、すごく魅力があるところですし、暮らすにはちょうどよい場所だと思っています。だから、子どもを遠くの施設にやるよりも、別府ですと育て、安心して暮らしてほしいという思いがあります。ぜひ、別府に子どもが安心して暮らせる場所ができればよいなと思っています。

知的障がいのある人でも、自分の状況を説明できる人もいます。見た感じ、怪しいという感じがどうしてもすると思いますが、多動であったり、奇声を発したりするのは、その人にとってはそれが普通のこと。端から見ると「えっ、この人どうしたんだろう」と思われるかもしれませんが、その人が持っている声や動作は障がいがあるからなのです。ですから、これが普通だと思っていただければと思います。

### 【質疑応答】

Q. 横断歩道などで障がいのある方や車椅子の人に会ったとき、見たらいけないのではないかと、じろじろ見ていると思われるのではないかと、意図的に目をそらしていたのですが、それはどうなのでしょう？

A. 見てもかまわないと思います。「何か困りごとはないかな、気をつけてね」という気持ちで見てくださいとよいかと思います。私が自分の子を連れているとき、特に子どもは素直ですから、変な人という感じで見られることがあります。よくお母さんなどが「見たらだめ」と言っていますが、こういう人もいるのよと教えていただければと思います。

Q. 別府市には、ショートステイがないのですか？

A. 知的障がいのある人が利用できる場所はありません。精神障がいの施設に頼み込んで、その好意で利用できる場合はありますが、必ず利用できるというわけではありません。

